



公立阿伎留医療センターだより



2021年5月19日発行 No.11 発行 阿伎留病院企業団/公立阿伎留医療センター

関係各位

公立阿伎留医療センター

院長 荒川 泰行

平素関係各位には公立阿伎留医療センターの運営にご理解・ご協力を賜り感謝申し上げます。

公立阿伎留医療センターは、秋川流域の唯一の公立病院であり、急性期医療・地域包括ケア・回復リハビリテーション・緩和ケア等を中心に5疾患・5事業の地域医療を担う総合病院として、常に地域住民の生命と健康維持の向上に貢献をしております。

一方、一昨年12月中国・武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に世界中を巻き込んでパンデミックな流行状態となりました。わが国でも同ウイルスの市中感染化とともに蔓延化して感染爆発が全国各地で発生し、一年有余にわたって感染第1派、第2波、第3波、そして第4波が相次ぐなか3度にわたる「緊急事態宣言」が発令されても、現在なお収束の兆しはありません。

これは、まさしく「**感染災害**」と言える状況ではありますが、公立阿伎留医療センターは、国及び東京都の様々な要請（依頼）を受けながら、次のような新型コロナウイルス感染症の医療を当初より実践してきました。

1. 「帰国者・接触者」（新型コロナ外来）診察室の設置
2. 新型コロナ患者の入院専用病棟（病床）の確保
3. ドライブスルー方式による「PCR検査センター」の開設
4. 西多摩保健所の要請で、秋川流域の高齢者介護施設等でのクラスター発生時は施設職員の感染予防対策の教育・研修と職員・入所者のPCR検査用の検体採取に職員派遣
5. コロナ感染症病床の確保、特に新規患者発生数が増大して医療逼迫状態に陥ってからは2病棟を「感染症専用病棟」に転換し、最大限30床～40床の入院即応体制の維持
6. 「発熱患者用の外来診療・検査室」の開設

7. 秋川流域の医療職員及び住民の新型コロナワクチンの集団接種への協力

この一年間に拡大した新型コロナウイルス感染症への一連の医療対応は、これまでの5疾患・5事業の医療計画の枠を超えた「**感染災害**」とも言うべき領域であります。

私ども一公立病院として、通常の5疾患（がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患）と5事業（救急医療、災害時における医療、へき地医療、周産期医療、小児医療）の通常業務に加えて、新型コロナ感染症へこれだけ（1. ～7. ）の資源を投入して地域に医療と保健（特定健診、がん検診など）サービスの分化と集中を図って包括的に提供できている病院は殆どないだろうと自負しています。

今後、都道府県は8次（2024年～2028年）医療計画の改正を策定中ではありますが、5疾患・5事業に6つ目の事業として、今回の新型コロナウイルスの感染症のような新たな感染症が拡大した場合を想定して「**新興感染症拡大時における医療**」が盛り込まれる予定です。公立阿伎留医療センターは、現在の第7次医療計画の段階で予想される「新興感染症拡大時における医療」を幅広く実践したということでは素晴らしいことであると思慮しています。

秋川流域の新型コロナワクチン接種事業 公立阿伎留医療センターの接種分担（役割）の急遽変更

さらに、この度新型コロナウイルスワクチンの接種事業の遅滞が社会的問題になっているなか、国より地方自治体に65才以上の高齢者への同ワクチン接種を加速するように再三強い指示が発出されていると伺っております。「今の接種ペースなら4回目の非常事態宣言が必要であるだろう」と専門家は指摘しているほどであります。

さて、秋川流域の3市町村においては、5月中旬以降順次同ワクチン接種が開始されますが、市町村によっては現在予定されている集団接種と診療所での個別接種回数だけでは、高齢者のワクチン接種を7月末までに終了することは困難であることが予想されています。高齢者の場合、遅くとも、6月末日までには第1回目のワクチン接種が終了させるぐらいの情熱がないと、7月末までには2回目の接種を全部終了することができませんので、これまでの接種計画の前倒し（大幅な見直し）が必要となってきています。ワクチン接種には「集団接種」と「個別接種」のベストミックスが大切ですので、これまでのワクチン接種の戦略・戦術を再耕して、新型コロナウイルス感染症を攻める唯一の道具であるワクチンを最大限活用しない手はないです。そこに求められるのは情熱と連携と迅速な実行力あるのみであります。

今日の新型コロナウイルス感染症流行の多様化と変異株の出現によって遷延・拡大するコロナ禍（感染第4波）をゲームオーバーに持ち込むためには、一日でも早く多くの住民の皆さんにゲームチェンジャーとなる同ワクチンの接種を普及させて「**集団免疫**」を根付かせることが喫緊の課題であると認識しております。

つきましては、各接種施設での接種枠の大幅な拡大とペースアップが求められることとなりますが、公立阿伎留医療センターで、これまで予定していた新型コロナウイルスワクチン接種業務を見直し、ワクチン接種枠を下記の如く急遽拡大・変更することにしましたのでご報告致します。

記

公立阿伎留医療センターでは、秋川流域住民対象の新型コロナウイルスワクチン集団接種の業務分担の見直しに伴って、5月24日より次のように平日・土曜日のみならず、日曜日・祝日にも接種枠を拡げて実施致します。これによって7月末までの期間にあきる野市の65才以上の高齢者でワクチン接種対象者の2回接種見込み総回数3万9千708回のうち約50%の方々が公立阿伎留医療センターで接種を受けることになるだろうと予想されます。

1. 平日（月曜日～金曜日）・祝日の午後の時間帯は、午後1時30分より開始して終了を午後6時まで延長する。
2. 土曜日は午前9時30分より開始して、終了を午後5時まで延長する。
なお、午前のチームと午後のチームは昼食の休憩時間を取らずにシームレス（午後1時交代が目安）に業務を交代する。
3. 新たに日曜日も、土曜日と同様にワクチン接種を実施する。但し終了は午後5時までとする。

以上のことを実施するためには、医師、看護師、薬剤師、事務職等にはさらなる負担を掛けることとなりますが、非常事態でありますので、地域医療の最後の砦のエッセンシャル・ワーカーとしての奉仕の精神と忍耐を胸に刻み One Team、One AKIRU で大いに頑張る所存です。

コロナワクチン接種をスピードアップして集団免疫の獲得へ

住民の皆さんは、ワクチン接種を①**早く**、②**近くで**、③**安全**に受けることを願っております。このワクチン接種のコンセプトを実現するために、行政と医療者は連携して情熱を傾け一気呵成に接種事業を進めましょう。

ワクチン接種の普及と新規感染者数の減少の関係は『**K型**』の文字で表せます。